



関久保土地区画整理事務所 (☎ 593-1165)、文化財保護課 (☎ 594-5566)、都市計画政策課都市計画政策担当 (☎ 594-5546)

久保特定土地区画整理事業が抱える課題

久保特定土地区画整理事業は平成8年度から開始しましたが、この地区が抱える課題が明らかになり、令和3年度末現在の事業の進捗率は46.1%。このペースだと、事業完了は令和33年度になってしまいます。

- 課題 1 オオタカの保護**
平成13年に、久保地区内で希少な野生動植物である「オオタカ」の営巣を確認。土地利用計画の見直しや工事の際の配慮が必要となり、事業の進捗に大きく影響。
- 課題 2 「デーノタメ遺跡」との共存**
遺跡の評価が高まり、「**区画整理事業と遺跡の共存を目指した新しいまちづくりを行うことが市として望ましい**」旨の提言を有識者会議から受け、遺跡エリアの工事は手つかずに。
- 課題 3 資金計画への影響**
土地の評価額の減少が続くとともに、東日本大震災等の影響により国の補助金が減少し、資金計画を含めた事業計画に大きく影響。

こうした課題により、土地区画整理事業に遅れが出ています。しかし、既に久保地区内の約3割で土地利用が始まっているため、**区画整理事業は完了させなければなりません。**

課題を解決する3つの見直しポイント

以上の課題から、久保特定土地区画整理事業を次の3つのポイントの通り見直すこととしました。

ポイント 1 遺跡周辺エリアを区画整理事業区域から除外

デーノタメ遺跡を含む周辺エリアを区画整理事業区域から除外。区画整理の施行面積が縮小することで、事業経費を削減し、事業期間を短縮します。

ポイント 2 デーノタメ遺跡の国指定史跡化

デーノタメ遺跡の歴史的価値をふまえ、国指定史跡化を目指します。国の指定を受けることで新たな国の補助金の活用が可能に。

ポイント 3 都市計画道路西仲通線を遺跡エリア西へ迂回

遺跡の国指定史跡化を目指すため、計画の上では遺跡の中央を縦断する「西仲通線」を遺跡の西側へ迂回するルートに変更。これにより早期に都市計画道路の整備が可能に。



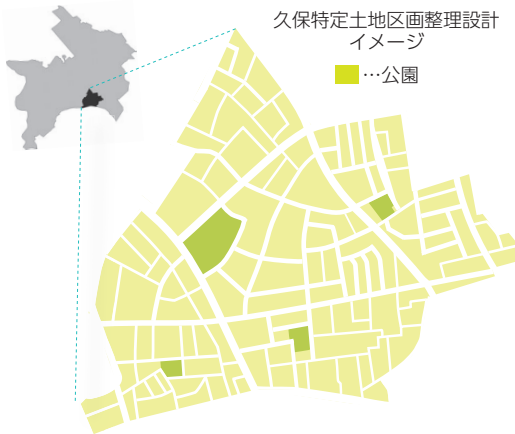
	市負担事業費	事業期間	評価
現計画のまま進めた場合	77.2億円 (116.7億円) ※	～令和33年度	1 事業期間の短縮
見直し案により進めた場合	73.7億円 (125.4億円) ※	～令和27年度	2 事業経費の縮減
現計画との差	-3.5億円 (+8.7億円) ※	-6年	3 デーノタメ遺跡の国指定史跡化による北本のブランド力向上

※ () 内は区画整理事業と遺跡エリア・周辺居住エリア・都市計画道路の事業費を含む全体事業費です

下石戸下エリアの道路や土地を整える「久保特定土地区画整理事業」。このエリア内に位置する「デーノタメ遺跡」の学術的価値が明らかになり、区画整理と遺跡の共存を目指して事業を見直しています（見直し案は広報きたもと令和3年11月号でお知らせしています）。

今回は、見直し案の内容を振り返るとともに、地権者の皆さんから伺った声や「デーノタメ遺跡」の価値とその活用についてお伝えします。

久保特定土地区画整理事業とは

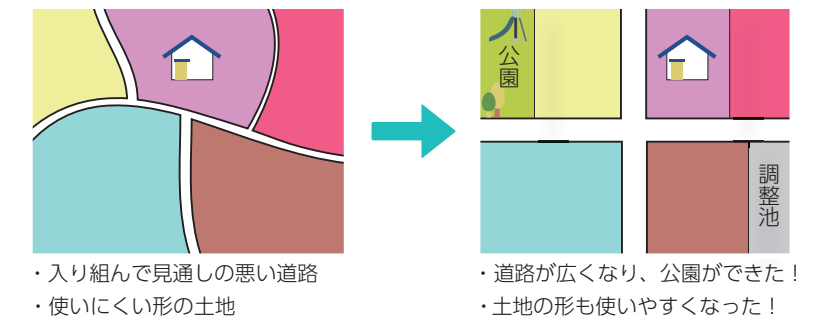


久保特定土地区画整理事業とは、北本市の下石戸下エリア（通称「久保地区」）の区画整理を行うものです。この地区は、北本市と桶川市の中心市街地の間に位置し、小規模な宅地開発により無秩序な市街化が進められてきました。その結果、区画は入り組み、道路は狭く、通行しにくいなどの弊害が生じていました。これを解決するため、昭和44年から区画整理が検討され、平成8年度から事業を開始しました。

■総事業費 110.3億円 ■施行面積 44ha
■事業期間 平成9年2月3日～令和8年3月31日

そもそも区画整理事業って？

狭い道路や入り組んだ区画を整理し、道路を拡幅して街区をきれいに整え、新たな市街地をつくる事業のことです。地権者の皆さんから少しずつ土地を提供していただき、道路・公園などを整備します。



久保特定土地区画整理事業とデーノタメ遺跡の関係

デーノタメ遺跡とは「久保地区」内に位置する縄文時代（今から5,000年前～3,500年前）の遺跡です（右図赤線部分）。この時代の遺跡としては中期の集落が関東最大級の大きさで、縄文人の生活解明に繋がる重要な資料が数多く出土しています。現在の久保特定土地区画整理事業等の計画では、都市計画道路がこの遺跡を縦断しています。

デーノタメ遺跡の詳細は⑤、⑥ページで解説します



デーノタメ遺跡は埋蔵文化財の分布調査で発見された遺跡で、集落跡の広がる台地上は雑木林などに覆われています。